

2025年度 事業報告書

I. 事業の概要

今年度は、例年どおり、研究等への助成事業や奨学金給付事業を行った。
それぞれの事業の実施状況は、以下のとおりである。

<公益目的事業1>

2026年1月26日 第32回選考委員会 採択結果

(単位：千円)

	応募数	採択数	助成金額	前年比
1(1) 一般研究者への助成	198	91	132,550	103%
1(2) 若手研究者への助成	47	25	19,960	143%
1(3) 在外実務研修助成	4	3	2,700	—
2 国際交流助成	30	12	10,590	109%
3 国際会議助成	12	5	7,500	105%

* 前年比は助成金

1. 都市に関する学術研究に対する助成（定款第4条1項1号）

(1) 一般研究者への助成

① 対象

都市計画・都市景観、都市環境工学、都市交通システム・エネルギー計画、建築技術、都市建築史、都市と文化、都市政策、都市経済などに関連する研究を行う一般研究者

② 募集

2025年7月1日当財団のホームページに募集要項を掲示し、国公私立大学等に募集案内を送付したうえで、同年10月1日から10月31日までの間応募を受け付けた。

③ 選考

198件の応募があった。

応募案件毎にそれぞれ3名の選考委員が、次の評価要素を勘案し、事前審査が行われた。

- 発想の独創性
- 研究計画の実現性
- 研究又は研究体制の発展への貢献度
- 財団の助成対象としての適合性

2026年1月26日開催の第32回選考委員会において、9名の選考委員が事前審査の結果を踏まえて、91名の助成候補者を選定し、理事長に報告した。

理事長が研究助成対象者 91 名の採択を承認したので、2026 年 3 月 5 日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。
(採択後に 3 名辞退)

(計 128,680 千円)

(2) 若手研究者への助成

① 対象

大学院修士又は博士課程に在籍し、都市に関するテーマを専攻する若手研究者

② 募集

(1) 一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

47 件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、奨励研究助成候補者 25 名を選定し、理事長に報告した。

理事長が奨励研究助成対象者 25 名の採択を承認したので、2026 年 3 月 5 日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

(計 19,960 千円)

(3) 在外実務研修助成

① 対象

大学院修士又は博士課程に在籍し、都市に関連する学術分野を専攻する学生のうち海外の研究機関、設計事務所等で実務研修を受けようとする者

② 募集

(1) 一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

4 件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、在外実務研修助成候補者 3 名を選定し、理事長に報告した。

理事長が奨励研究助成対象者 3 名の採択を承認したので、2026 年 3 月 5 日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

(採択後に 1 名辞退)

(計 1,800 千円)

2. 都市に関する学術研究を行う海外に在住する研究者の招聘及び日本に在住する研究者の海外派遣に対する助成 (定款第 4 条 1 項 2 号)

① 対象

都市に関する学術的な国際会議、学会または共同研究等のために来日す

る海外に在住する研究者の招聘、又は同様の目的で渡航する日本に在住する研究者の海外派遣

② 募集

1 の（1）一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

30 件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、国際交流助成候補者 12 名を選定し、理事長に報告した。

理事長が国際交流助成対象者 12 名の採択を承認したので、2026 年 3 月 5 日、応募者全員に採択の旨を通知した。

（計 10,590 千円）

3. 都市に関する国際会議、研究集会、シンポジウム及びセミナー等の開催に対する助成（定款第 4 条 1 項 3 号）

（1）国際会議助成について

① 対象

日本で開催される都市に関する国際会議等

② 募集

1 の（1）一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

12 件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、国際会議助成候補 5 件を選定し、理事長に報告した。

理事長が国際会議助成対象 5 件の採択を承認したので、2026 年 3 月 5 日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

（計 7,500 千円）

（2）学術講演会、展示会、セミナーなどの開催等への助成

以下の 10 件について助成を行なった。

① 第 25 回記念「別府アルゲリッチ音楽祭」

② 現代アートレジデンスにおける海外キュレーター
レー・トゥアン・ウエンの招聘

③ 山本理顕展 ―コミュニティと建築―

④ exhibition Atelier Bow Wow

⑤ ひろしま国際建築祭 2025

⑥ 第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（2026）における日本館
展示

- ⑦ アルフレド・ジャー You and Me and the Others
- ⑧ ドナルド・ジャッド展：マーファ
- ⑨ 25th Biennale of Sydney
- ⑩ Performance by Theaster Gates and The Black

(計 11,822 千円)

4. 都市に関する学術研究等において優れた成果を上げた研究者に対する顕彰
(定款第4条1項4号および6号)

2025年9月22日に第30回選考委員会（第1次審査）、11月17日に第31回選考委員会（第2次審査）、2026年1月26日に第32回選考委員会（最終選考）を開催し、第14回大林賞の受賞者の選考を行った。

・選考委員会は、受賞候補者としてコッチャコーン・ヴォラホム氏を推挙し、理事長に報告した。

・理事長はこれにもとづき、第14回大林賞の受賞者にコッチャコーン・ヴォラホム氏とすることを決定した。

氏 名 コッチャコーン・ヴォラホム

現 職 ノルウェー生命科学大学（NMBU）

ランドスケープアーキテクチャ名誉博士

(授賞理由)

コッチャコーン・ヴォラホム氏は、都市環境、人々の生活、そしてその双方に深い影響を与える「水」の存在——これら三者の根幹的な関係性を再構築することにおいて、卓越したリーダーシップを発揮されている。

柔軟なアプローチと環境の質に対する妥協なき追求を両立させ、一つ一つのプロジェクトに揺るぎない献身を持って取り組む姿勢は、最高レベルの賞賛に値する忍耐力、情熱、そして専門家として卓越している。

タイから発信されるメッセージは、日本、アジア全域、そして世界中の人々に感銘を与える独自の力を持ち、支持と連帯の輪を広げていくものと高く評価された。

(計 267 千円)

5. 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成する為に必要な事業
(定款第4条1項8号)

研究助成事業と顕彰事業（大林賞）における選考会議開催費、選考料他の助成事業関係費を支出した。

(計 18,213 千円)

6. 都市に対して新たな視点からの提言、研究等を行う制作者等への助成（定款第4条1項5号）

- (1) 第5回制作助成対象者のホー・ルイ・アン氏によるレクチャーパフォーマンス「The Price of Gold/金の価格」の開催準備を行った。イベントの開催は4月4日を予定している。

日時 2026年4月4日（土）
15：00-17：00（開場 14：30）

会場： 日比谷コンベンションホール（大ホール）

< プログラム >

15:00-16:00 レクチャー・スクリーニング
ホー・ルイ・アン氏
片岡一郎氏（活動写真弁士）

16:00-16:05 主催者挨拶
理事長 大林 剛郎

16:05-17:00 ポストトーク
ホー・ルイ・アン氏、片岡一郎氏
足立元氏（美術史・視覚社会史研究家）
モデレーター：保坂健二郎氏

（計 17,994 千円）

- (2) その他、制作助成事業に係る事業について

制作助成事業全般に関する事務局外部委託費、選考会議開催費、選考料
他の制作助成事業関係費を支出した。

（計 13,194 千円）

合計 31,188 千円

< 公益目的事業 2 >

2025年6月12日、7月16日

第18・19回奨学生選考委員会 採択結果

(単位：千円)

	応募数	採択数	奨学給付金
国内奨学生（第11期）	--	--	900
国内奨学生（第12期）	--	--	9,600
国内奨学生（第13期）	--	--	7,200
国内奨学生（第14期）	31	24	22,800
海外留学奨学生（第1期）	--	--	8,071
海外留学奨学生（第2期）	43	12	14,770

7. 都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする国内学生及び留学生に対する学資の給付及び支援等（定款第4条1項7号）

(1) 国内奨学生選考

① 募集

2024年12月4日に国公立大学（財団指定29校）に募集案内を送付したうえで、2025年4月1日から5月15日までの間応募を受け付けた。

② 選考

19大学から31件の応募があった。

それぞれの応募者について、6名の奨学生選考委員によって、次の評価要素を勘案し、審査・面接が行われた。

- a. 都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする意志があること
- b. 人物、学業、健康ともに優れていること
- c. 奨学生交流会等、当財団の行事に積極的に出席する意志があること

2025年7月16日開催の第19回奨学生選考委員会において、24名の候補者を選定し、理事長に報告した。

理事長が2025年度奨学生（第14期）24名の採択を承認したので、2025年7月22日、奨学生及び各大学に採用決定の旨を通知した。

(2) 国内奨学生 奨学給付金

① 第11期・第12期生・第13期生

学期終了後、生活状況報告書、学業成績証明書などの提出を受け、全員給付継続とし、5月、7月、10月、1月に各3ヶ月分をそれぞれ給付した。

② 第14期生

2025年8月19日、第1回奨学給付金6ヶ月分を振込み、10月10日に残りの6ヶ月分を給付した。

(計 40,500 千円)

(3) 海外留学奨学生選考

① 募集

2024年12月4日に国公立大学（財団指定29校）に募集案内を送付したうえで、2025年4月21日までの間、応募を受け付けた。

② 選考

19大学から43件の応募があった。

それぞれの応募者について、6名の奨学生選考委員によって、次の評価要素を勘案し、審査・面接が行われた。

- a.都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする意志があること
- b.前向きに海外留学に取り組む意志があること
- c.異文化・多様性の理解を積極的に行い、将来国内外で広く活躍する意志があること
- d.人物、学業、健康ともに優れていること
- e.奨学生交流会等、当財団の行事に積極的に出席する意志があること

2025年6月12日開催の第18回奨学生選考委員会において、12名の候補者を選定し、理事長に報告した。

理事長が2025年度海外留学奨学生（第2期）12名の採択を承認したので、2025年6月23日、奨学生及び各大学に採用決定の旨を通知した。

(3) 海外留学奨学生 奨学給付金

① 第1期生

年度終了後、留学生生活状況報告書、学業成績証明書などの提出を受け、残りの留学期間分の海外留学奨学金を給付した。

② 第2期生

2025年8月以降、それぞれの出発時期に合わせ1か月前を目途に、本年度分の海外留学奨学金を給付した。

(計 12,045 千円)

海外・国内奨学金 合計 63,342 千円

(5) その他、奨学事業に係る事業について

- ① 2025年度奨学生採択決定通知書授与式・交流会（国内奨学生・海外留学奨学生合同）を、下記の通り実施した。

日 時 2025年8月20日 16:00～18:00

場 所 授与式 株式会社大林組本社3階講堂
交流会 同上30階レセプションホール

出席者 国内奨学生（第14期）22名、
海外留学奨学生（第2期）10名、
財団関係者 11名
第1期～第13期生 50名（交流会のみ出席）

- ② 国内奨学金第14期生、海外留学奨学金第2期生参加のPort Plus 大林組横浜研修所見学会を開催した。

日 時 2025年8月21日 10:00～11:00

場 所 Port Plus 大林組横浜研修所見学会

参加者 37名

（国内奨学生 22名、海外留学奨学生 9名、財団関係者 6名）

- ③ 授与式開催時に既に留学を開始している海外留学奨学生2名について、2025年7月18日に別途授与式を行った。

- ④ 2025年度奨学生修了式等を、下記の通り実施した。

日 時 2026年3月17日 16:00～18:30

場 所 修了式・海外留学奨学生成果報告会
株式会社大林組 本社14階プレゼンテーションルーム
交流会 同上30階レセプションホール

出席者 修了生 28名（国内 17名、海外 11名）、
財団関係者 12名
修了生を除く第1期～第14期生 59名（交流会のみ出席）

（計 8,529 千円）

(注) 上記1～3の各助成対象者の氏名、研究内容等については、事報－15～29の一覧表に記載のとおり。

上記7の奨学生採択者大学名については、事報－32に記載のとおり。

Ⅱ 透明性の向上（認定法第 21 条第 4 項に掲げる事項）

1. 当事業年度における公益目的事業の実施状況

① 公益目的事業の実績について

I（事報－1～事報－8）を参照

② 公益性を確保するための取組

※表中の「計画」は、内閣府定期提出書類「2. 個別の事業の内容について（1）公益目的事業について」の区分ごとのチェックポイントに対しての説明より引用

<公益目的事業 1>

	No.	計画（チェックポイントからの引用）	実績
助成（応募型）	1	当該事業は、都市研究に携わる研究者の学術研究を助成し、わが国学術研究の振興に寄与しようとするもので、定款、募集要項、ホームページで明らかにしている。 今日わが国人口の大半が都市に生活している。都市が抱える問題の解決、将来の都市へのヴィジョン形成、技術的課題の解消等々、都市に関する研究は広範囲な分野に及んでいる。これら研究者に対する助成を通してもたらされる研究成果は都市環境の整備・増進に寄与しているものと考ええる。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	2	都市研究に関する研究者への助成を対象としており、応募者に一定の基準はあるが、特定のものを排除するものではない。 応募方法については、関係分野の学会誌に公告するほか、ホームページに募集要項を開示している。また、公募の周知を図るため、都市研究、環境工学、都市経済、設計、建築・土木工学等の学科を持つ大学・大学院等に募集案内を送付している。なお、応募は申請者個人が財団に対して行うものとしている。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	3	定款 4 条（5）を除く助成対象の選考は、本財団内に設置されている選考委員会において行われている。選考委員会は、別に定める選考委員会運営規則及び審査方法、手順に則して、助成対象の選考を行っている。 具体的には、応募により助成申請のあった研究課題を分野ごとに分類し、一件につき複数の選考委員が採点し、その合計点を集計し評価している。さらに、その評価に基づき、選考委員会の合議により採択を最終決定している。なお、委員と同じ競争的資金等を用いた研究グループに属する候補者の選考には、当該委員は加わらないこととしている。	チェックポイントの記載の通り実施した。

助成（応募型）		また、協賛については、各年度の予算の大枠は理事会にて決定し、寄せられる内容と時期が明確ではない為、個別に理事長、常務理事さらに個々の案件については、その分野に明るい理事で内容を審査・決定し、選考委員の承認を得られたものを採択するものとする。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	3	定款第4条（5）の助成対象の選考については、別途定める推薦選考委員会において討議・評価後、理事会にて決定するものとする。推薦選考委員会は選考委員会運営規則および審査方法・手順に準じて、助成対象の選考評価を行う。尚、選考対象は財団ホームページでの募集を通じての公募又は推薦選考委員による推薦としている。	本年度は実施年。
	4	選考委員会は大学教授及び学識経験者で構成されている。	<選考委員> 選考委員長 大西 隆 東京大学 名誉教授 選考副委員長 伊東 順二 美術評論家 選考委員 青柳 いづみこ 大阪音楽大学 教授 池田 靖史 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 特任教授 佐々木 葉 早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 教授 土佐 尚子 京都大学防災研究所 特定教授 平田 京子 日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科 教授 村木 美貴 千葉大学大学院 工学研究院 教授 森 知也 京都大学経済研究所 教授
			<推薦選考委員> 選考委員長 野村 しのぶ 東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター 選考副委員長 保坂 健二郎 滋賀県立美術館 ディレクター（館長） 選考委員 飯田 志保子 キュレーター 大坂 紘一郎 アサクサ 代表 藪前 知子 東京都現代美術館 学芸員
	5	助成した対象者、内容等は新聞紙上に公開するほか、ホームページに掲載する。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	6	定款第4条（5）を除く助成対象者には、研究等の実施後、実施報告書及び支出報告書の提出を求めている。また、一般研究者及び奨励研究者の研究課題とその研究成果については、これをホームページに掲載している。協賛事業についても展示会・展覧会終了後には実施を確認し、その結果についてはホームページへ掲載するものとする。	チェックポイントの記載の通り実施した。

	6	定款第4条（5）の助成対象者については、その成果を展示し、場合によっては講演会等を開催することによりそのコンセプトを公に発表するものとする。	チェックポイントの記載の通り実施した。
表彰、コンクール	1	本財団の目的として、わが国の学術研究の振興に寄与することと定款に定めており、目的達成のため事業の一つとして顕彰事業を位置づけている。また、顕彰の趣旨、受賞者のプロフィール、受賞理由・功績、シンポジウムの内容をホームページに掲載している。都市に関する研究分野において顕著な功績のあった者を表彰し、シンポジウム等を通じて公開広報することによって、大学・研究機関の研究者、行政関係者へのインセンティブを喚起し、さらに、一般社会の知識の向上、啓蒙を図っている。学術講演会にシンポジウム、提案コンペ等についても主旨・内容について、公開・広報し、門戸を広げ不特定多数の知識の向上や啓蒙を図っていく。なお、原則としてその出席者についてはホームページ等で周知し広く参加者を募ることとしている。	本年度は選考年。
	2	顕彰対象者は、都市研究に関する広範囲な分野の高度な専門知識を有する選考委員個々によってリサーチされ、その結果を選考委員会で合議し、受賞者を決定している。なお、リサーチにあたっては委員との直接の利害関係者は対象としないこととしている。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	3	選考委員は以下のとおりである。	<選考委員> 選考委員長 大西 隆 東京大学 名誉教授 選考副委員長 伊東 順二 美術評論家 選考委員 青柳 いづみこ 大阪音楽大学 教授 池田 靖史 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 特任教授 佐々木 葉 早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 教授 土佐 尚子 京都大学防災研究所 特定教授 平田 京子 日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科 教授 村木 美貴 千葉大学大学院 工学研究院 教授 森 知也 京都大学経済研究所 教授
	4	受賞者は、新聞紙上で公開することとしている。また、その内容はホームページに掲載する。	現在掲載準備中につき、受賞者の公開は2026年4月中旬を予定している。
	5	受賞者に対して、当該表彰に係る金銭的負担は一切求めている。	本年度は選考年。

講座、セミナー、育成	1	本財団の目的として、わが国学術研究の振興に寄与する事と定款に定め、ホームページに公表している。	当年度は自主開催でのセミナー実施はないため該当なし。
	2	当該セミナーや講演会の結果をホームページなどを利用して社会に公表する。	
	3	財団の選考委員や理事が当該セミナーや講演会に参加或いは協力し、参加者の知識や見聞の向上に寄与する。	
	4	講師に対する報酬はセミナーの内容や規模により異なるが基本的には無報酬あるいは軽微な謝礼とする。	
展示会、○○ショー	1	都市に関する研究分野は、都市計画、エネルギー・環境、景観、歴史・文化、防災、交通・通信、建設技術、医療・介護システム等々に及び、未来に向けた果敢なる対策と取り組みが求められている。前述の大林賞授賞式後のシンポジウム、その他講演会、シンポジウム、提案コンペ及びセミナー等を行い、それを通じて、今後の日本をの担う都市研究に従事する研究者及び学生の知識の普及をすることにより、学術研究の振興に寄与する。 定款に、上記の都市に関する学術研究を助成し、もってわが国学術研究の振興に寄与する旨を明記し、事業目的をホームページで公表している。	当年度は選考の年にあたり、該当なし。
	2	テーマに沿ったシンポジウムやセミナーを開催する。	
	3	開催にあたっては参加者の広範な出席を促すため、入場無料を原則とする。	

<公益目的事業 2>

	No.	計画（チェックポイントからの引用）	実績
助成（応募型）	1	都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする、指定校に在学する国内学生及び留学生から、学部、専攻等を問わず幅広く応募を受け付けている。なお、指定校は、都市に関する学術研究の振興が期待できると考える大学の中から 29 校程度を選定する。	チェックポイントの記載の通り実施した。
	2	都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする、指定校に在学する国内学生及び留学生から、学部、専攻等を問わず幅広く応募を受け付けている。なお、指定校は、都市に関する学術研究の振興が期待できると考える大学の中から 29 校程度を選定する。	チェックポイントの記載の通り実施した。

3	奨学生の選考は、当財団内に設置される奨学生選考委員会において行われる。奨学生選考委員会は、別に定める運営規則等に則して公正に奨学生の選考を行うこととする。なお、応募者と特別の利害関係がある選考委員は奨学生の選考に携わることができない旨を運営規則等に定めている。	チェックポイントの記載の通り実施した。
4	奨学生選考委員は、学識経験者又は識者で構成されている。	<推薦選考委員> 選考委員長 大西 隆 東京大学 名誉教授 選考副委員長 平山 忠 株式会社大林組 本社人事部長 選考委員 佐々木 葉 早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科教授 森 知也 京都大学経済研究所 教授 安部 浩 株式会社大林組 執行役員 建築本部副本部長 兼 建築本部本部長室長 西上 裕之 株式会社大林組 執行役員 土木本部副本部長 兼 土木本部本部長室長
5	奨学金の内容等各大学の奨学生数を、ホームページ上で公表する。	チェックポイントの記載の通り実施した。
6	国内奨学生には、毎年生活状況報告書及び成績表等の提出を義務付けるとともに、学部4年時には、都市に関連する研究レポート等を提出させる。海外留学奨学生には、半年ごとに留学生生活報告書等の提出を義務付けるとともに、留学終了時には留学成果報告書等を提出させる。	チェックポイントの記載の通り実施した。

2. 当法人の運営体制の充実を図るための取組

① 公益法人内部における規範

年に2回、コンプライアンスチェックリストを用い理事会・評議員会で報告を行っている。

② 運営体制の充実を図るための取組

外部の専門家より助言をあおいでいる。

制作事業	アート分野の専門知識を有するアーツイニシアティブトウキョウ（AIT）と業務委託契約を締結
奨学事業	海外留学奨学制度の導入に伴い、外部選考委員を増員
会計全般	新公益法人会計基準の開始に伴い、新規に会計顧問と業務委託契約を締結

【附属明細書について】

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」に規定する「附属明細書」に該当する事項はありません。

2025年度研究助成採択者一覧表（88名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
1	吉村 理	ヨシムラ タダシ	畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 教授	奈良県吉野地域における大径林地残材の活用に関する研究－地域の製材所と大工がつくる厚板による建築構造材の開発－	150
2	酒井 高良	サカイ タカラ	東京科学大学 環境・社会理工学院 特任助教	協調・非協調車両が混在する道路交通ネットワークシステムの数理解析	150
3	高橋 晃平	タカハシ コウヘイ	北海道大学大学院 工学研究院環境工学部門 JSPS特別研究員 (PD)	網羅的な解析による都市下水中の薬剤耐性菌拡散動態の解明	150
4	渡部 守義	ワタナベ モリヨシ	明石工業高等専門学校 都市システム工学科 教授	都市における街路樹生態系サービスの可視化に関する研究	108
5	濱田 栄作	ハマダ エイサク	琉球大学 教育学部 教授	シリアスゲームを利用した迷惑施設に対する住民意識と受容性の地域差異の分析	120
6	相川 雄哉	アイカワ ユウヤ	同志社大学 商学部 助教	高温化する都市における労働移動と生産性：ガーナ製造業の事例からみる気候変動への適応と課題	149
7	日高 正人	ヒダカ マサヒト	北海道立衛生研究所 感染症部 研究職員	都市環境における人獣共通感染症リスク規定要因の解明：人獣共通感染症に強い都市の構築に向けて	150
8	坂井 勝哉	サカイ カツヤ	大阪大学 大学院工学研究科モビリティシステム共同研究講座 特任講師（常勤）	再エネ活用と電力容量制約を考慮した商用EV拠点充電シェアリングの最適化	150
9	Ren Dawei	ニン ダイイ	北海道大学 工学研究院 博士研究員	コンクリート排水管の劣化予測・可視化および地理情報システムを活用した道路陥没防止への応用	150
10	藤澤 隆介	フジサワ リュウスケ	北九州市立大学 環境技術研究所、情報システム工学科 准教授	Scene Graph Generation を用いた施工現場環境における群ロボットの通信レス自律分散制御の構築と評価	150
11	古山 周太郎	コヤマ シュウタロウ	早稲田大学 人間科学学術院 准教授	避難支援教育プログラムを通じたインクルーシブな地域空間の構築に関する研究	150
12	長谷川 益己	ハセガワ マスミ	九州大学大学院 農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座 助教	地域資源竹材を用いた調湿機能性CLTの開発と評価	150
13	伊藤 大知	イトウ ダイチ	茨城大学 工学部都市システム工学科 講師	高レベル放射性廃棄物の地層処分に資する高透水圧環境におけるベントナイト系材料の透水挙動評価	150

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
14	間所 洋和	マドコロ ヒロカズ	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授	都市型養蜂業のためのIoTとエッジAIを搭載したスマート養蜂箱の開発	150
15	王 益遜	ワン イーション	東京科学大学物質理工学院 材料系 助教	ワイヤーク積層造形を用いた高張力鋼部材のリユースと座屈設計指針の確立	150
16	LI YUTONG	リ ウトン	東京理科大学 工学部建築学科 嘱託助教	AI音声解析に基づく外壁タイル剥離検出システムの構築と実構造物への適用	150
17	菊田 弘輝	キクタ コウキ	北海道大学大学院 工学研究院 建築都市部門 准教授	クラスター調査に基づく医療施設の感染拡大メカニズムの解明	150
18	山下 哲郎	ヤマシタ テツオ	工学院大学 建築学部建築学科 教授	高い曲げ剛性を有する複層木造 Bending-activeラチスシェル構造の形状形成と座屈実験	150
19	飯塚 悟	イイツカ サトル	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	住宅室内の冷暖房エネルギー消費の「無理のない」削減に向けたシミュレーション検討	150
20	野澤 俊太郎	ノザワ シュンタロウ	東北大学 研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセンター 特任准教授	1930年代の日本における商店街の組織化と都市美運動：中小小売業への介入手段としてのデザイン	150
21	八重樫 咲子	ヤエガシ サキコ	山梨大学大学院総合研究部 工学域土木環境工学系 准教授	都市部を流下する河川における河道掘削後の水生生物多様性の回復過程の検証	150
22	清田 隆	キヨタ タカシ	東京大学 生産技術研究所 教授	気候変化と地盤内応力の影響を考慮した地盤強度低下メカニズムの解明	150
23	福留 未菜	フクドメ ミナ	立命館大学 OIC総合研究機構 助教	離島航空における水素航空機導入の環境性・経済性統合評価モデルの構築	150
24	中嶋 唯貴	ナカシマ タダヨシ	北海道大学大学院 工学研究院 准教授	地震動・津波浸水深さの不確定性を考慮した人的被害軽減に結びつくまちづくり施策の検討	145
25	平尾 しえな	ヒラオ シエナ	東京科学大学大学院 環境・社会理工学院 建築学系 助教	茅場を中心にした「里山巡礼」の可能性	150
26	坂本 淳	サカモト ジュン	高知大学 教育研究部自然科学系理工学部 講師	インドネシアの新首都開発がもたらす新たな洪水リスクと適応策	144
27	Andi Hermawan	アンディ ヘルマワン	九州大学農学研究院 環境農学部 門 准教授	都市環境負荷低減を目指した廃EPS活用型木質構造材の開発	150
28	齋藤 憲寿	サイトウ ノリトシ	秋田大学大学院 理工学研究科 技術専門職員	鉄鋼スラグの資源循環と環境保全の両立を目指した玉川酸性水の中和处理技術の開発	150

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
29	朝原 誠	アサハラ マコト	東海国立大学機構岐阜大学 工学部機械工学科 准教授	次世代エネルギーの安全利用に向けたDX型リスク管理技術の開発	150
30	山梨 裕太	ヤマナシ ユウタ	東北大学大学院 工学研究科都市・建築学専攻 助手	ドイツにおける公的住宅の供給主体別立地集約政策の効果と課題に関する研究－フランクフルト市「都市高密度化プロジェクト」を事例として－	143
31	鋤田 泰子	クワタ ヤスコ	神戸大学 大学院工学研究科市民工学専攻 教授	高架鉄道周辺の稠密計測による地盤振動特性の解明	150
32	谷口 円	タニグチ マドカ	室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域 教授	カーボンニュートラル時代における持続可能な地域のための冬期施工に関する研究	118
33	笠 真希	リュウ マキ	佐賀大学 理工学部都市工学部門客員研究員	オランダの空間計画における気候変動適応策に関わる「水と土壌の視覚化手法」の研究	143
34	高橋 彰	タカハシ アキラ	大阪大学 D3センター 特任助教(常勤)	避難シミュレーションとVR体験を統合した津波避難計画の実証的評価と改善手法の構築	150
35	安東 美穂子	アンドウ ミホコ	Aalto University Department of Architecture Postdoctoral Researcher	都市環境における「遊び」に関する研究－アート遊具と遊び場の3Dデジタルモデルを通して	150
36	胡 紅	フ ホン	東京理科大学 工学部 嘱託助教	津波時の避難行動選択に及ぼす個人のリスク選好の影響	150
37	肥田 剛典	ヒダ タケノリ	茨城大学大学院 応用理工学野都市システム工学専攻 准教授	水害避難時の人体挙動シミュレーションモデルの構築	150
38	四井 早紀	ヨツイ サキ	東京大学 先端科学技術研究センター 助教	地域住民による地震時の捜索救助活動困難度指標の開発－2016年熊本地震を対象に－	150
39	崔 ナレ	チェ ナレ	大阪大学 大学院工学研究科 准教授	建築空間における香りの繰り返し暴露が嗅覚・心理・生理反応に及ぼす影響に関する研究	150
40	崔 瑛	サイ エイ	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授	内部侵食に起因する盛土の浸透安定性低下機構と保水性指標による健全度診断法の提案	150
41	塚本 由晴	ツカモト ヨシハル	東京科学大学大学院 環境・社会理工学院 建築学系 教授	蒸暑地域における夜型都市の調査とデザインプロジェクト「ノクターナル東京」	150
42	菅原 邦生	スガハラ クニオ	新潟青陵大学短期大学部 人間総合学科 准教授	近代日本の開港場における都市の近代化の独自性：新潟における街灯の運用実態から	150

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
43	Ma Jue	マ ジュエ	東京大学 空間情報科学研究センター 特任助教	コンパクトシティ政策評価に向けた非集計レベルの人口分布推計と将来人口予測	150
44	魯 牡丹	ル ムタン	九州大学大学院 キャンパス計画室 訪問研究員	東京の商店街における「コミュニティ」概念像の射程変容に即した包摂的構造と活力に関する研究	150
45	山田 健	ヤマダ ケン	静岡大学 人文社会科学部法学科 講師	未発の港湾都市建設を跡づける：都市開発構想形成・消滅・転換の政策史	100
46	金澤 伸一	カナザワ シンイチ	新潟大学 工学部工学科社会基盤工学プログラム 准教授	AIを活用した河川堤防の破堤リスク予測と防災DX支援手法の開発	150
47	位田 達哉	インデン タツヤ	国土舘大学 理工学部理工学科建築学系 准教授	地方創生を担うコミュニティ大工の空き家再生現場におけるAI安全管理	150
48	南 泰裕	ミナミ ヤスヒロ	国土舘大学大学院 工学研究科 教授	タイ・クレット島における水系住居と都市域の特性に関する研究	150
49	熱海 良輔	アツミ リョウスケ	長岡工業高等専門学校 物質工学科 准教授	河川空間を活用した舟運・UAV輸送検討のためのGISデータベース構築	150
50	南 健斗	ミナミ ケント	信州大学 工学部建築学科 助教	置屋根土蔵の熱換気機能に基づく環境的価値の解明	150
51	松田 頼征	マツダ ヨリユキ	工学院大学 建築学部 建築学科 准教授	鋼構造建物を対象にしたスラブ再打設型制振ダンパー設置工法の開発	150
52	佐藤 幸恵	サトウ サチエ	東京都市大学 建築都市デザイン学部建築学科 教授	外観画像に基づく建築属性推定とマルチモーダルデータを活用した鉄筋コンクリート造建築物の外壁点検自動化手法の開発	150
53	木下 光	キノシタ ヒカル	関西大学 環境都市工学部建築学科 教授	シンガポール国立大学と協働するシンガポールの伝統的町家ショップハウスのクールーフ及びNet-Zero Heritageに関する研究開発	150
54	芦澤 竜一	アシザワ リュウイチ	滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科 教授	湖岸集落における半農半漁村民家の環境装置再構築によるリジェネラティブデザインの実践研究	150
55	アルマザン ホルヘ	アルマザン ホルヘ	慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科 教授	地域の回遊性を復活・活性化する新たな建築要素挿入の実践的研究ー伊豆・湯ヶ島の温泉街をフィールドとしてー	150

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
56	劉 虹	リュウ コウ	東京理科大学 創域理工学部建築学科 嘱託助教	超高層集合住宅群におけるマルチハザードの時空間特性を考慮した複合災害リスクマトリクスモデルの構築	146
57	坪内 健	ツボウチ ケン	北海道大学大学院工学研究院 建築都市部門空間デザイン分野 助教	残余宅地の経年動態からみる東日本大震災における集団移転の経路依存性の解明	120
58	谷本 潤	タニモト ジュン	九州大学大学院総合理工学研究院 環境理工学部 教授	都市交通渋滞の緩和のための自動運転システムは普及するか？ - 都市交通流に潜む社会ジレンマ解析	150
59	松山 洋	マツヤマ ヒロシ	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 教授	東京都内の湧水における水質の長期変化に関する研究	139
60	白田 太	ハクタ フトシ	豊田工業高等専門学校 建築学科 准教授	損傷したコンクリートの補強に関する基礎的研究	150
61	遊佐 洋右	ユサ ヨウスケ	新潟大学 理学部 助教	ミュー粒子を使った都市構造物内部検査のための小型装置開発	148
62	鷲崎 俊太郎	ワシザキ シュンタロウ	九州大学 経済学研究院 准教授	旧城下町における掘割の埋立から見た近代日本の都市化に関する再考の分析：江戸・山形の事例	150
63	田畑 幸嗣	タバタ ユキツグ	早稲田大学 文学学術院 教授	河川城壁都市ピエンチャンの成立と展開 — 前近代ラオスにおける城壁・水利網発達に関する基礎研究	150
64	齋藤 雪彦	サイトウ ユキヒコ	千葉大学大学院 園芸学研究院 環境造園計画学領域 教授	『生活地図』を活用した復興計画手法の開発と復興まちづくりの実践 - 奥能登での「海・土と生きる」生活の持続に向けて -	145
65	三隅 貴史	ミスミ タカフミ	広島修道大学 人文学部社会学科 准教授	都市の伝統的祭礼の継承と「相互動員ネットワーク」— 東京都23区西部の神輿渡御を事例として —	84
66	立石 祥子	タテイシ ショウコ	情報科学芸術大学院大学 メディア表現研究科 講師	〈科学の場〉における芸術実践に関する研究	150
67	宮本 慎宏	ミヤモト ミツヒロ	香川大学 創造工学部 教授	伝統構法木造建築物に用いられる柱－横架材接合部における曲げと引張の複合応力の影響を考慮した木造軸組架構の耐震性能評価法の構築	150
68	多田 豊	タダ ユタカ	愛媛大学大学院 理工学研究科 環境建設工学講座 准教授	地域全体の避難完了率向上を目指す説明型動的ハザードマップの開発	150

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
69	金 政秀	キム チョンス	武蔵野大学 工学部建築デザイン学科 教授	市庁舎建築のZEB化における建設コスト構造および意思決定プロセスに関する研究	150
70	田村 順子	タムラ ジュンコ	明治大学大学院 理工学研究科 建築・都市学専攻 特任准教授	コミュニティ・ライブラリーを媒介とする参加型まちづくり手法の確立 ―年齢段階別ワークショップの設計・実施・検証―	150
71	宇野 宏司	ウノ コウジ	神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 教授	伝統文化施設における防災・減災課題の抽出と自然災害被災リスクの検証	150
72	杉本 悠真	スギモト ユウマ	岩手大学 理工学部 理工学科 社会基盤・環境工学コース 助教	地震後の点検・復旧を容易にできるゴム支承部の構造詳細に関する検討	150
73	李 時桓	イ シファン	東京理科大学 工学部建築学科 准教授	VR・EEG評価に基づくバイオフィリックPVファサードの多目的最適化	150
74	本多 久美子	ホンダ クミコ	芝浦工業大学 建築学部 准教授	「公益性」と「経済性」を両立するモビリティハブ設計条件の導出 ―行動データ解析と3D人流シミュレーションによる統合評価―	150
75	近藤 紀章	コンドウ ノリアキ	滋賀大学 データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター 講師	文化的景観のブリッジ機能の解明と外部資本を組み込んだ共有資源管理の再構築―スコットランドのウイスキー産業における泥炭地保全	148
76	田中 稲子	タナカ イネコ	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授	居住を前提とする歴史的建造物としての洋風住宅の温熱改修のあり方に関する研究	150
77	渡邊 隼	ワタナベ シュン	日本大学 経済学部 経済学科 准教授	ドイツ「社会都市」の形成と展開に関する調査研究	150
78	白石 靖幸	シライシ ヤスユキ	北九州市立大学 国際環境工学部 建築デザイン学科 教授	時刻別CO2排出係数を用いた大規模蓄電池のリアルタイム最適運用手法	150
79	佐藤 布武	サトウ ノブタケ	名城大学 理工学部建築学科 准教授	参画型居場所構築による都市漁村互惠生活圏構築に関する研究	150
80	田邊 めぐみ	タナベ メグミ	大阪大谷大学 教育学部教育学科 非常勤講師	15世紀フランス都市表象の研究	141
81	神田 將志	カンダ マサシ	山陽学園大学 地域マネジメント学部 地域マネジメント学科 教授	エコミュージアムに参画する住民の主体的関与と行動意識変容	147
82	矢嶋 一裕	ヤジマ カズヒロ	ウィーン工科大学 日墾学術交流センター 客員研究員	アドルフ・ロースの建築と都市に関する研究	150
83	JIN PANPAN	ジン パンパン	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 特任研究員	漸進的更新過程における都市形態の連続性と秩序維持の構造分析	130

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
84	王 澤霖	オウ タクリン	東京科学大学 環境・社会理工学 院建築学系 助教	材料特性のばらつきが鉄筋コンク リート部材の性能評価に及ぼす影 響の実験的研究	150
85	蔡 高創	サイ コウソウ	千葉大学 大学院工学研究院 准教 授	梁貫通型CFT柱-フラットスラブ 接合部の耐震性能に関する実験調 査	150
86	林 和典	ハヤシ カズノリ	近畿大学 生物理工学部人間環境 デザイン工学科 助教	継承されるまちの条件 ―コンセ プチュアル・ニュータウンの診断 を通して―	150
87	種市 慎也	タネイチ シンヤ	横浜国立大学大学院 都市イノベ ーション研究院 助教	レインガーデンの雨水保持による 暑熱緩和効果とその持続性の評価	150
88	中西 大輔	ナカニシ ダイスケ	京都美術工芸大学 建築学部 講師	江戸時代の神社門前における茶店 の建築経緯に関する研究	150

合計 12,868

2025年度奨励研究助成採択者一覧表（25名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
1	美馬 彬良	ミマ アキラ	大阪公立大学大学院 工学研究科都市系専攻 建築構造・材料学グループ	都市型キャンパスの建物内デジタルツインを基盤とした地域共創型防災力の強化	80
2	金山 友喜	カナヤマ ユウキ	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学大学院 地理環境学研究科 Christian Hilber 研究室	空き家の供給効果の推定	80
3	杉田 悠斗	スギタ ユウト	大阪公立大学大学院 工学研究科都市系専攻 建築計画・構法研究室	被災地における生活再建拠点に関する研究 -能登半島地震のサポート拠点とみんなの家を対象として-	80
4	LIN HUNG	リン ホン	京都大学大学院 地球環境学舎 人間環境設計論分野	質的調査を統合した都市熱リスクの機構診断と将来シナリオに基づく施策優先度の推定 -台北・新北都市圏での検討	80
5	柳田 裕紀	ヤナギダ ユウキ	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科地理環境学域 都市・人文地理学研究室	親子へのインターネット調査による子どもからみた都市の生活環境の解明ー認知的アクセシビリティの観点からー	80
6	入口 梨佳	イリグチ リカ	九州大学大学院 工学府地球資源システム工学専攻 岩盤・開発機械システム工学研究室	セメント系材料の炭酸化反応の促進によるCO2固定に向けたバイオマス燃焼灰の有効利用	80
7	北嶋 泰周	キタジマ タイシュウ	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻 南アジア・インド洋世界論講座	19世紀以降のネパールにおける都市形成に関する歴史民族誌的研究：カトマンズ旧市街地の地域住民による「自治の空間」の解明	80
8	崎山 賢人	サキヤマ ケント	京都大学大学院 工学研究科都市社会工学専攻 河川流域マネジメント工学 研究室	事前防集事業における差込型移転の実態調査と効果の定量評価ーエージェントベースモデルを用いた都市構造・洪水リスク分析ー	80
9	高橋 仁志	タカハシ ヒトシ	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科建築学専攻 木下研究室	都市を「見る」建築ーEMBTにおける都市認識と思考の観察研究	80

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
10	金柿 大祐	カナガキ ダイスケ	東京大学大学院 農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 木質材料学研究室	LVLにおける木質構造用ねじ接合部の引抜き抵抗メカニズムに関する研究	80
11	大沼 勇斗	オオヌマ ユウト	筑波大学大学院 理工情報生命科学術院 生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム 人文地理学研究室	日本の都市圏における人口分布と空間構造に基づくエスニック集団間関係の多層的変容	80
12	田中 希穂	タナカ キホ	名古屋大学大学院 環境学研究科都市環境学専攻 鵜飼研究室	オフィス内植物工場との空気循環連携による環境性能の最適化	80
13	木村 希	キムラ ノゾミ	Université du Québec à Montréal Faculté des sciences humaines Département de sociologie Centre de recherches : cultures arts sociétés	都市空間における公共芸術と言語的マイノリティの関係性に関する研究：カナダ・モントリオールのミューラルアートの政策を事例に	80
14	佐々岡 潤	ササオカ ジュン	熊本大学大学院 自然科学教育部 博士後期課程 工学専攻 建築音響研究室(川井・丸山研究室)	量子化テンソルトレイン分解を用いた有限要素法による大規模音響解析の基礎的研究	80
15	白岩 元彦	シライワ モトヒコ	横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 都市地域社会専攻 交通と都市研究室	GPSデータと高精度交通手段推定を用いたバス公共交通軸の影響評価	80
16	直木 郁也	ナオキ フミヤ	近畿大学大学院 生物理工学研究科生体システム工学専攻 建築・地域計画研究室	都市型重要文化的景観における景観形成と制度活用の実態に関する研究	80
17	山本 泰斗	ヤマモト タイト	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 近代建築史研究室	旧制高等教育機関の建築教育形成に関する研究－英国建築教育理念の受容を事例とした『高工教育』にみる教育思想の変遷－	80
18	佐倉 萌恵	サクラ モエ	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 大田研究室	非イスラム地域・ベトナムにおけるモスク建築に関する研究	80
19	大松 王明	オオマツ キミアキ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 加藤耕一研究室	イタリアヴィチエンツァにおける都市と建築の重層性－既存の都市構造とパッラーディオ建築の関係に注目して－	80

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
20	青木 雄大	アオキ ユウダイ	新潟大学大学院 自然科学研究科 環境科学専攻 海岸工学研究室	沿岸都市の減災に資する強風・不規則波浪の複合作用による越波メカニズムの解明	80
21	竹田 桃子	タケダ モモコ	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科環境科学専攻 ランドスケープ学研究室	京都における町家・料亭庭園と都市景観に関する研究	79
22	中西 輝	ナカニシ ヒカル	信州大学大学院 総合理工学研究科工学専攻建築学分野 中谷研究室	気候変動下における居住者行動の最適化 -強化学習による熱的快適性の向上と空調負荷削減の両立-	80
23	永田 右京	ナガタ ウキョウ	岩手県立大学大学院 総合政策研究科 杉谷和哉研究室	都市政策における生成AIの制度的活用 ― 戦略層における価値形成プロセスの設計と実証 ―	77
24	秋山 玲也	アキヤマ レイヤ	高知工科大学大学院 工学研究科 建築・都市デザインコース 建築・都市環境工学研究室	執務空間の足部加温による冬季熱的快適性及び知的生産性向上効果に関する研究	80
25	浅海 瑞貴	アサミ ミズキ	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 都市デザイン研究室	1960年代末の大学紛争が都市計画教育・研究・職能像の展開に与えた影響――東京大学工学部都市工学科「川上秀光文庫」の整理を中心として――	80

合計 1,996

2025年度在外実務研修助成採択者一覧表（2名）

（単位：万円）

No.	氏名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
1	小那木 颯翔	オナギ ハヤト	東京理科大学大学院 創域理工学研究科 建築学専攻 山名研究室	バルクリシュナ・ドーシの設計理念に関する研究～生活・伝統・気候に根差した建築を具体化する設計手法に着目して～	90
2	野澤 美遊	ノザワ ミユウ	千葉大学大学院 融合理工学府創成工学専攻建築学コース 安森亮雄研究室	オーストリア建築における空間感覚の応用と文化的表現について	90

合計 180

2025年度国際交流助成採択者一覧表（12名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	区分	所 属 ・ 職 名	研 究 課 題	助成額
1	小松 啓志	コマツ ケイジ	（派遣・共同研究）	長岡技術科学大学 技学研究院 物質生物系 助教	日蘭国際共同研究で切り開く3Dプリン トコンクリートへの機能付加	90
2	篠原 崇之	シノハラ タカユキ	（派遣・共同研究）	国立研究開発法人 産業技術総 合研究所 レジリエントインフ ラ実装研究センター 劣化診断 技術研究チーム 主任研究員	数式駆動型三次元CADモデルと合成 点群で拓く橋梁3DモデリングAI構築	90
3	Konduri Sreenidhi	コンツリサイ スリニチ	（招聘・共同研究）	韓国・釜山大学 建築学科 ポス ドク研究員	日本・韓国の小規模街路における ジェントリフィケーションに伴う景 観の視覚的・空間的特性に関する比 較研究	90
4	曾我 昌史	ソガ マサン	（招聘・共同研究）	東京大学大学院農学生命科学 研究科 生圏システム学専攻 准 教授	集約型・粗放型都市開発がもたらす 自然資本と心理的健康への影響：日 英の比較分析	71
5	田村 洋	タムラ ヒロシ	（派遣・共同研究）	横浜国立大学 都市イノベー ション研究院 准教授	積層造形技術の適用による新たな腐 食鋼部材当て板補修・補強法の開発	90
6	倉内 文孝	クラウチ フミタカ	（招聘・共同研究）	岐阜大学 工学部社会基盤工学 科 教授	Attacker-Defenderモデルを用いたレ ジリエントな交通ネットワークシス テムの構築	90
7	澤田 茉伊	サワダ マイ	（招聘・共同研究）	東京科学大学 環境・社会理工 学院 土木・環境工学系 准教授	都市の土循環システムの構築：吸水 ポリマー混合土の再資源化のための 評価法構築	90
8	熊澤 貴之	クマザワ タカユキ	（派遣・共同研究）	茨城大学 応用理工学部都市シ ステム工学領域 教授	生活道路環境における要配慮者の社 会的インクルーシブデザインに関す る研究	90
9	坪田 隆宏	ツボタ タカヒロ	（派遣・国際会議）	愛媛大学大学院 理工学研究科 生産環境工学専攻 環境建設工 学講座 准教授	マルチモーダルAIによる気象・気候 を考慮した交通事故危険性のリアル タイム予測	90

(単位：万円)

No.	氏 名	フリガナ	区分	所 属 ・ 職 名	研 究 課 題	助成額
10	Wu Jindong	オ キン トン	(招聘・共同研究)	清華大学 建築学院 風景園林学 専攻 研究員(ポスドク)	利用者の熱的快適性を考慮したボ ケットパーク設計における景観配置 構成の最適化に関する研究	90
11	大塚 亜希子	オオツカ アキコ	(派遣・共同研究)	秋田県立大学 システム科学技 術学部建築環境システム学科 助教	木造建築物の劣化診断および床振動 の心理的影響に関する国際共同研究	90
12	戸谷 圭子	トヤ ケイコ	(派遣・共同研究)	明治大学 専門職大学院グロー バル・ビジネス研究科 教授	スウェーデンにおけるグリーンエネ ルギーの活用と地域活性化	88

合計 1,059

2025年度国際会議助成採択者一覧表（5名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所 属	国 際 会 議 の 名 称	助成額
1	Dewancker Bart	デワンカー バート	北九州市立大学 国際環境工学部 建築デザイン学科 教授	【和文】第16回アジア低炭素デザイン学会国際会議 【英文】16th International Conference of Asian Institute of Low Carbon Design	150
2	勝見 武	カツミ タケシ	京都大学 大学院地球環境学堂 教授	【和文】第10回環境地盤工学国際会議 【英文】10th International Congress on Environmental Geotechnics	150
3	岩波 光保	イワナミ ミツヤス	東京科学大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 教授	【和文】第6回次世代を担うコンクリート材料・構造国際シンポジウム 【英文】The 6th international Symposium on Concrete and Structures for the Next Generation CSN 2026	150
4	宇楊 再治	ウヨウ サイジ	京都大学大学院 工学研究科 助教	【和文】第16回アジアのメガシティにおける環境衛生問題に関する国際学会 【英文】The 16th International Conference on Environmental and Public Health Issues in Asian Mega-cities (EPAM 2026)	150
5	中島 江梨香	ナカシマ エリカ	中部大学 工学部応用化学科/工学研究科創造エネルギー理工学専攻 講師	【和文】第一回アジア ポリマー添加剤・複合材・製造技術会議 【英文】Polymer Additive Composite and Manufacturing Asian Workshop	150

合計 750

2025年度展示会・展覧会等への協賛 助成採択者一覧表（10件）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所 属	展覧会等 の名称	助成額
1	尾野 賢治	オノ ケンジ	公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団	第25回記念「別府アルゲリッチ音楽祭」	100
2	渡辺 元	ワタナベ ハジメ	バックカース・ファンデーション	現代アートレジデンスにおける海外キュレーター レー・トゥアン・ウエンの招聘	100
3	山本 理顕	ヤマモト リケン	一般社団法人地域社会圏研究所	山本理顕展ーコミュニティと建築ー	100
4	Ramesch Daha	- -	ゼセッション館（オーストリア）	exhibition Atelier Bow Wow	101
5	神原 勝成	カンバラ カツシゲ	一般社団法人 神原・ツネイシ文化財団	ひろしま国際建築祭 2 0 2 5	100
6	黒澤 信也	クロサワ シンヤ	独立行政法人国際交流基金	第61回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（2026）における日本館展示	100
7	鬼頭 誠司	キトウ セイジ	公益財団法人東京オペラシティ文化財団	アルフレド・ジャー You and Me and the Others	150
8	和多利 浩一	ワタリコウイチ	ワタリウム美術館	ドナルド・ジャッド展：マーファ	150
9	Barbara Moor	- -	Biennale of Sydney	25th Biennale of Sydney	161.26
10	東野 佳哉	ヒガシノ カヤ	門ホールディングス株式会社	Performance by Theaster Gates and The Black	119.94

合計 1,182.20

財団設立以来の各種助成事業の実施状況（2012年度～2025年度）

(2026. 3月現在)

助成対象区分		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
研 究 助 成 (一般研究者)	応募総数	110件	88件	78件	85件	95件	105件	114件	102件	77件	82件	89件	162件	149件	198件
	採択予定件数	17件	17件	18件	17件	42件	40件	40件	60件	45件	50件	62件	60件	70件	90件
	採択件数	20件	30件	18件	35件	51件	49件	49件	70件	52件	51件	71件	74件	86件	88件
	採択率　％	18. 2%	34. 1%	23. 1%	41. 2%	53. 7%	46. 7%	43. 0%	68. 6%	67. 5%	62. 2%	79. 8%	45. 7%	57. 7%	44. 4%
	助成額（千円）	19, 585	22, 580	17, 694	25, 100	49, 379. 5	47, 709	64, 372. 25	90, 792	70, 606	71, 550	102, 370	100, 650	124, 770	128, 680
奨励研究助成 若手研究者 (博士課程在籍者)	応募総数	23件	10件	17件	10件	17件	12件	18件	9件	9件	20件	15件	23件	35件	47件
	採択予定件数	5件	5件	5件	5件	10件	10件	6件	6件	6件	6件	10件	7件	15件	25件
	採択件数	7件	8件	5件	7件	11件	10件	10件	7件	6件	17件	14件	17件	24件	25件
	採択率　％	30. 4%	80. 0%	29. 4%	70. 0%	64. 7%	83. 3%	55. 6%	77. 8%	66. 7%	85. 0%	93. 3%	73. 9%	68. 6%	53. 2%
	助成額（千円）	3, 300	3, 980	2, 490	3, 160	5, 490	4, 934	7, 422. 5	5, 230	4, 660	13, 590	11, 200	13, 300	19, 050	19, 960
在外研修助成 (修士・博士 課程在籍者)	応募総数	0件	0件	0件	3件	0件	1件	0件	2件	1件	2件	0件	0件	0件	4件
	採択予定件数	1件	1件	1件	1件	2件	1件	1件	1件	1件	3件	3件	3件	3件	3件
	採択件数	0件	0件	0件	2件	0件	1件	0件	2件	1件	2件	0件	0件	0件	2件
	採択率　％	0. 0%	0. 0%	0. 0%	66. 7%	0. 0%	100. 0%	0. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	50. 0%
	助成額（千円）	0	0	0	850	0	500	0	1, 280	700	1, 780	0	0	0	1, 800
国際交流助成	応募総数	12件	7件	6件	8件	3件	7件	7件	8件	5件	3件	4件	9件	16件	30件
	採択予定件数	2件	2件	2件	2件	4件	2件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	10件
	採択件数	3件	3件	2件	2件	2件	4件	4件	5件	5件	2件	4件	4件	12件	12件
	採択率　％	25. 0%	42. 9%	33. 3%	25. 0%	66. 7%	57. 1%	57. 1%	62. 5%	100. 0%	66. 7%	100. 0%	44. 4%	75. 0%	40. 0%
	助成額（千円）	1, 570	1, 800	1, 200	1, 200	1, 160	2, 100	2, 443	4, 340	3, 940	1, 800	3, 590	3, 200	9, 740	10, 590
国際会議助成	応募総数	7件	12件	13件	5件	8件	7件	11件	9件	5件	6件	12件	10件	7件	12件
	採択予定件数	3件	3件	3件	3件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件
	採択件数	3件	5件	3件	3件	5件	5件	5件	6件	5件	6件	8件	6件	5件	5件
	採択率　％	42. 9%	41. 7%	23. 1%	60. 0%	62. 5%	71. 4%	45. 5%	66. 7%	100. 0%	100. 0%	66. 7%	60. 0%	71. 4%	41. 7%
	助成額（千円）	3, 000	4, 000	3, 000	2, 970	4, 700	4, 950	6, 615	7, 680	7, 490	9, 000	11, 300	8, 930	7, 200	7, 500
小計		27, 455	32, 360	24, 384	33, 280	60, 730	60, 193	80, 853	109, 322	87, 396	97, 720	128, 460	126, 080	160, 760	168, 530
展示会・展覧会等への 協賛	応募総数	3件	3件	5件	3件	3件	2件	1件	4件	2件	3件	5件	4件	9件	10件
	採択予定件数	4件	4件	4件	4件	8件	3件	3件	3件	3件	3件	5件	5件	6件	6件
	採択件数	3件	3件	5件	3件	3件	2件	1件	4件	2件	3件	5件	4件	9件	10件
	採択率　％	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
	助成額（千円）	700	1, 215	3, 300	3, 000	2, 900	3, 000	1, 000	3, 600	2, 000	3, 327	5, 345. 3	3, 010	16, 282. 5	11, 822
申 請 総 数		155件	120件	118件	114件	126件	134件	151件	134件	99件	116件	125件	208件	216件	301件
採択予定件数（合計）		32件	32件	33件	32件	71件	61件	60件	80件	65件	72件	90件	85件	104件	139件
採 択 数		36件	49件	33件	52件	72件	71件	69件	92件	71件	81件	102件	105件	136件	142件
採 択 率　％		23. 2%	40. 8%	28. 0%	45. 6%	57. 1%	53. 0%	45. 7%	68. 7%	71. 7%	69. 8%	81. 6%	50. 5%	63. 0%	47. 2%
助 成 額（千円）		28, 155	33, 575	27, 684	36, 280	63, 629. 5	63, 193. 0	81, 852. 75	112, 922	89, 396	101, 047. 2	133, 805. 3	129, 090. 0	177, 042. 5	180, 352

(注) 2025年度研究助成は決定後3名辞退、在外実務研修助成は1名辞退。採択件数より削除済み。

財団設立以来の各種助成事業の実施状況（1998年度～2011年度）

助成対象区分		1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
研 究 助 成 (一般研究者)	応募総数	24件	56件	49件	41件	46件	53件	63件	81件	87件	73件	88件	81件	82件	88件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	12件	12件	12件	10件	10件	17件	15件	12件	12件	15件
	採択件数	8件	10件	11件	13件	12件	12件	13件	11件	20件	18件	15件	12件	14件	16件
	採択率 %	33.3%	17.9%	22.4%	31.7%	26.1%	22.6%	20.6%	13.6%	23.0%	24.7%	17.0%	14.8%	17.1%	18.2%
	助成額（千円）	12,000	14,850	16,340	19,470	17,711	17,580	19,360	16,500	29,250	26,320	22,154	17,660	16,700	15,890
奨励研究助成 若手研究者 (博士課程在籍者)	応募総数	9件	8件	12件	10件	9件	8件	7件	6件	4件	6件	3件	12件	13件	12件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	7件	7件	10件	7件	5件	10件	10件
	採択件数	9件	8件	10件	9件	9件	8件	7件	6件	4件	6件	3件	7件	10件	9件
	採択率 %	100.0%	100.0%	83.3%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	58.3%	76.9%	75.0%
	助成額（千円）	2,700	2,380	3,000	2,700	2,700	2,400	2,100	1,800	1,200	1,800	900	2,100	3,000	2,620
在外研修助成 (修士・博士 課程在籍者)	応募総数			3件	3件	1件	2件	0件	1件	3件	2件	0件	1件	3件	1件
	採択予定件数			0件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	2件	2件
	採択件数			3件	3件	1件	2件	0件	1件	3件	2件	0件	1件	2件	1件
	採択率 %			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	100.0%
	助成額（千円）			900	900	300	600	0	300	900	600	0	300	600	300
国際交流助成	応募総数	17件	13件	7件	6件	8件	5件	7件	18件	5件	8件	10件	9件	8件	10件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	4件
	採択件数	8件	9件	7件	5件	8件	5件	7件	8件	5件	8件	9件	6件	8件	4件
	採択率 %	47.1%	69.2%	100.0%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	44.4%	100.0%	100.0%	90.0%	66.7%	100.0%	40.0%
	助成額（千円）	4,000	4,260	3,264	2,310	3,470	2,500	3,300	3,640	2,430	3,312	4,177	2,952	3,842	1,845
国際会議助成	応募総数	1件	6件	2件	1件	3件	4件	3件	6件	3件	7件	4件	14件	10件	5件
	採択予定件数	1件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	3件	3件	3件	3件	4件
	採択件数	1件	2件	2件	1件	2件	2件	2件	2件	3件	5件	3件	3件	4件	4件
	採択率 %	100.0%	33.3%	100.0%	100.0%	66.7%	50.0%	66.7%	33.3%	100.0%	71.4%	75.0%	21.4%	40.0%	80.0%
	助成額（千円）	1,000	2,000	2,000	1,000	2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	5,000	3,000	3,000	3,990	3,200
小計		19,700	23,490	25,504	26,380	26,181	25,080	26,760	24,240	36,780	37,032	30,231	26,012	28,132	23,855
展示会・展覧会等への 協賛	応募総数			0件	1件	0件	1件	0件	0件	0件	1件	1件	2件	1件	3件
	採択予定件数			2件	2件	2件	2件	2件	1件	1件	1件	1件	1件	2件	2件
	採択件数			0件	1件	0件	1件	0件	0件	0件	1件	1件	2件	1件	3件
	採択率 %			0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	助成額（千円）			0	1,000	0	1,000	1,000	0	0	1,233	500	1,000	1,000	1,781
申 請 総 数		51件	83件	74件	61件	68件	73件	80件	112件	102件	97件	106件	119件	117件	119件
採択予定件数（合計）		25件	34件	34件	37件	39件	39件	39件	31件	31件	42件	37件	32件	37件	37件
採 択 数		26件	29件	34件	31件	33件	30件	29件	28件	35件	40件	31件	31件	39件	37件
採 択 率 %		51.0%	34.9%	45.9%	50.8%	48.5%	41.1%	36.3%	25.0%	34.3%	41.2%	29.2%	26.1%	33.3%	31.1%
助 成 額（千円）		19,700	23,490	26,504	26,380	27,181	26,080	26,760	24,240	36,780	38,265	30,731	27,012	29,132	25,636

2025年度

国内奨学金 奨学生採択者所属大学一覧表（第14期）

No.	大学名	採択者人数
1	東北大学	1名
2	筑波大学	1名
3	東京大学	1名
4	東京理科大学	1名
5	一橋大学	2名
6	早稲田大学	1名
7	上智大学	1名
8	法政大学	1名
9	明治大学	1名
10	立教大学	1名
11	名古屋工業大学	2名
12	京都大学	1名
13	立命館大学	3名
14	関西大学	3名
15	神戸大学	2名
16	関西学院大学	2名
合 計		24名

海外留学奨学金 奨学生採択者所属大学一覧表（第2期）

No.	大学名	採択者人数
1	東北大学	1名
2	筑波大学	1名
3	東京大学	2名
4	東京科学大学	2名
5	慶應義塾大学	2名
6	早稲田大学	1名
7	明治大学	1名
8	大阪大学	1名
9	九州大学	1名
合 計		12名

Ⅲ. 処務の概要

1. 役員等に関する事項

2026年3月31日現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
理事長	非常勤	大林 剛郎	2024年7月2日	業務の総理	(株)大林組 取締役会長 兼 取締役会議長	
理 事	同 上	岩崎 貢	2026年3月25日辞任		ニッセイ・ウェルス生命保険株式会社 代表取締役社長 社長執行役員	
同 上	同 上	沖原 隆宗	2024年6月6日	業務の決議	株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問	
同 上	同 上	亀谷 太郎	2024年11月19日	同 上	糸平興産株式会社 代表取締役社長	
同 上	同 上	神戸 雄一郎	2025年6月9日	同 上	かんべ土地建物株式会社 代表取締役社長	
同 上	同 上	仲上 健一	2024年6月6日	同 上	立命館大学 OIC 総合研究機構サステイ ナビリティ学研究センター 上席研究員 立命館大学 名誉教授	
常務理事	常勤	絹川 直	2025年6月9日	理事長の補佐	(公財)大林財団	

監 事	非常勤	加賀谷 達之助	2024年6月6日	監 査	公認会計士	
同 上	同 上	小林 啓文	同 上	同 上	小林啓文法律事務所 弁護士	

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
評議員会長	非常勤	大林 智子	2022年6月2日	議案の審議・助言	(株)TJ COLLECTION 代表	
評議員	同 上	岡野 光喜	同 上	同 上	サンフロント21懇話会 名誉代表幹事	
同 上	同 上	川村 喜久	2023年5月30日	同 上	DIC 株式会社 エグゼクティブアドバイザー	
同 上	同 上	富田 和孝	2022年10月5日	同 上	日の丸交通株式会社 代表取締役社長	
同 上	同 上	藤本 壮介	2022年6月2日	同 上	株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表 取締役	
同 上	同 上	森 京子	同 上	同 上	森美術館 理事長	
同 上	同 上	古瀬 耕司	2025年6月9日	同 上	株式会社大林組 常務執行役員	

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
選考委員	非常勤	大西 隆	2025年1月17日	助成候補の選考	東京大学 名誉教授	委員長
同 上	同 上	伊東 順二	同 上	同 上	美術評論家	副委員長
同 上	同 上	青柳 いづみこ	同 上	同 上	大阪音楽大学 教授	
同 上	同 上	池田 靖史	同 上	同 上	東京大学大学院工学系研究科 建築学専 攻 特任教授	
同 上	同 上	土佐 尚子	同 上	同 上	京都大学防災研究所 特定教授	
同 上	同 上	佐々木 葉	同 上	同 上	早稲田大学創造理工学部社会環境工学 科 教授	
同 上	同 上	平田 京子	同 上	同 上	日本女子大学 建築デザイン学部 建築 デザイン学科 教授	

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
選考委員	非常勤	村木 美貴	2025年1月17日	助成候補の選考	千葉大学大学院 工学研究院 教授	
同 上	同 上	森 知也	同 上	同 上	京都大学経済研究所 教授	

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
推薦 選考委員	非常勤	野村 しのぶ	2024年11月25日	助成候補の選考	東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター	委員長
同 上	同 上	保坂 健二郎	同 上	同 上	滋賀県立美術館 ディレクター(館長)	副委員長
同 上	同 上	飯田 志保子	同 上	同 上	キュレーター	
同 上	同 上	大坂 紘一郎	同 上	同 上	アサクサ 代表	
同 上	同 上	藪前 知子	同 上	同 上	東京都現代美術館 学芸員	

職 名	常勤・非常勤	氏 名	就任(重任)年月日	担当職務	現 職	備考
奨学生 選考委員	非常勤	大西 隆	2024年4月1日	奨学生候補の選考	東京大学 名誉教授	委員長
同 上	同 上	平山 忠	同 上	同 上	(株)大林組 本社人事部長	副委員長
同 上	同 上	佐々木 葉	同 上	同 上	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授	
同 上	同 上	森 知也	同 上	同 上	京都大学経済研究所 教授	
同 上	同 上	安部 浩	2026年3月31日 退任		(株)大林組 執行役員 建築本部副本部長 兼 建築本部本部長室長	
同 上	同 上	西上 裕之	2025年5月7日	奨学生候補の選考	(株)大林組 執行役員 土木本部副本部長 兼 土木本部本部長室長	

2. 職員に関する事項

職 名	常勤・非常勤	氏名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常勤	絹川 直	2025年2月25日	同 上	(公財)大林財団との直接雇用による。
マネージャー	同 上	吉川 裕子	2008年1月15日	経理・総務・庶務の統括	(株)大林組との出向契約による。
事務局員	非常勤		2023年7月10日	奨学事業全般	
同 上	常 勤		2012年10月1日	経理・総務・庶務	
同 上	同 上		2024年10月1日	経理・総務・庶務	

3. 会議等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	会 議 事 項	会 議 の 結 果
2025年5月7日	1.2024年度事業報告書及び附属明細書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録の承認の件	全会一致で承認・可決
	3.奨学生選考委員の選任の件	全会一致で承認・可決
	4.第44回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
	5.評議員の辞任について	報告事項
2025年6月9日	1.剰余金の有効活用 について	全会一致で承認・可決
	2.2024年度の遊休財産 について	全会一致で承認・可決
	3.2025年度第1回業務執行状況の報告について	報告事項
	4.資産運用状況の報告について	報告事項
2025年7月28日	1.常務理事(業務執行理事)を選定する件	全会一致で承認・可決
	2.選考委員への謝金額を見直し、各選考委員会運営規則を改定する件	全会一致で承認・可決
	3.人事関連の既存諸規程を改定する件	全会一致で承認・可決
	4.第45回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
	5.理事の選任について	報告事項
	6.評議員の選任について	報告事項
2026年1月22日	1.第46回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
	2.監事の監査業務の対価を見直し、役員及び評議員の報酬規程を改定する件について	報告事項
2026年2月16日	1.2026年度事業計画書及び活動計算予算書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.株主権の議決権行使の件	全会一致で承認・可決
	3.奨学生選考委員の任期満了に伴う選任の件	全会一致で承認・可決
	4.第14回大林賞授賞者について	報告事項
	5.2025年度の研究助成等対象者決定について	報告事項
	6.2025年度第2回業務執行状況の報告について	報告事項
	7.第5回制作助成事業のイベント開催について	報告事項

(2) 評議員会

開催年月日	会 議 事 項	会 議 の 結 果
2025年6月9日	1.2024年度事業報告書及び附属明細書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録の承認の件	全会一致で承認・可決
	3.理事の選任の件	全会一致で承認・可決
	4.評議員の選任の件	全会一致で承認・可決
	5.剰余金の有効活用について	全会一致で承認・可決
	6.2024年度の遊休財産について	全会一致で承認・可決
	7.2025年度第1回業務執行状況の報告 について	報告事項
	8.資産運用状況の報告について	報告事項
	9.評議員の辞任について	報告事項
2025年8月21日	1.監事の監査業務の対価を見直し、役員及び評議員の報酬規程を改定する件	全会一致で承認・可決
	2.奨学生選考委員の選任について	報告事項
	3.常務理事の選任について	報告事項
	4.選考委員への謝金額を見直し、各選考委員会運営規則を改定する件について	報告事項
	5.人事関連の既存諸規程の改定について	報告事項
2026年2月16日	1.2026年度事業計画書及び活動計算予算書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.株主権の議決権行使について	報告事項
	3.奨学生選考委員の任期満了に伴う選任について	報告事項
	4.第14回大林賞授賞者について	報告事項
	5.2025年度の研究助成等対象者決定について	報告事項
	6.2025年度第2回業務執行状況の報告について	報告事項
	7.第5回制作助成事業のイベント開催について	報告事項

(3) 選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2025年7月29日	1.大林賞の在り方について	コンサルより提供された資料にて新しい大林賞の在り方について検討
	2.在外実務研修助成について	対象学生についての拡大について検討を行った

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2025年9月22日	1.第14回大林賞について(第1次選考)	推挙された17名の候補者について議論がなされた
2025年11月17日	1.第14回大林賞について(第2次選考)	候補者2名まで絞りこみを行った
2026年1月26日	1.2025年度研究助成等の選考について	全会一致で候補者選考決定
	2.展示会・展覧会への協賛について	承認
	3.2026年度助成事業に関するスケジュールについて	承認
	4.第14回大林賞授賞者について(経過報告)	最終選考の再審議にて、全会一致で授賞候補者を選考決定

(4) 奨学生選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2025年6月12日	1.2025年度(第2期)海外留学奨学生の選考の件	全会一致で候補者を選考決定
2025年7月16日	1.2025年度(第14期)国内奨学生の選考の件	全会一致で候補者を選考決定

(5) 推薦選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2025年4月2日	ホールイアン氏との顔合わせおよび第5回 制作助成事業に対する意見交換	ルイアン氏より今回の訪問場所やリサーチアシスタントについて報告、今後の訪問予定地についても言及があった
2025年11月20日	1.新規事業について	現代アーティストの海外派遣プログラムについて議論・検討を行った
	2.第5回制作助成事業について	
	①ホールイアン氏よりリサーチの進捗報告およびプレゼン内容の共有	ルイアン氏より佐渡金山のリサーチについて報告があった
	②会場候補および弁士に関する意見交換	活動弁士に弁士の歴史や活動についてインタビューを実施したことが報告された
	③西谷氏およびAITより、今後の進め方・広報スケジュール・次回会議の日程調整	12/17に日本語版のリリースを発信、2/10のリリースでは主に申込開始の告知、2/16にプレス向けを発信予定である事が報告された
2026年2月20日	新規事業のプログラム骨子整理について	現代アーティストの海外派遣プログラムについて議論・検討を行った
2026年3月26日	新規事業について	前回に引き続き、内容の検討を行った

4. 許可、認可、承認、証明等に関する事項

申請年月日	申 請 事 項	許可年月日	備 考
	該当事案なし		

5. 契約に関する事項

契約年月日	契 約 相 手 方	契 約 の 内 容	契約期間
2025年4月1日	有限責任監査法人トーマツ	予算・日常経理及び決算業務に係る指導・助言、内閣府の質問・立入検査時の法人対応に係る指導・助言	2025年4月1日～ 2025年12月31日
2025年6月1日	TOMA社会保険労務士法人およびTOMAコンサルタンツグループ株式会社	社会保険労務士の業務委託	2025年6月1日～ 2026年5月31日
2025年6月11日	株式会社大林組	人事制度に関する検討をするため、大林組が開示または提供する秘密情報の保持	2025年6月11日～
2025年7月4日	株式会社オーク情報システム	助成金応募管理業務効率化支援に関するシステム構築およびマクロ開発	2025年7月4日～
2025年7月4日	株式会社オーク情報システム	実施報告書PDF全文検索システム開発業務委託	2025年7月4日～
2024年10月3日	NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ	制作助成事業運営全般に関わる業務の委託	2024年10月3日～

6. 寄付金に関する事項

寄 付 の 目 的	寄 付 者	寄付金額
	なし	

7. 内閣府への届出・提出

連絡年月日	連 絡 事 項	履 行 状 況
2025年6月24日	2024年度事業報告書の提出	電子申請による提出
2025年11月28日	変更の届出(国内奨学金の応募開始学年を学部1年生及び2年生からとする、国内奨学金選考方法を1次審査(書類審査)の後、必要のある者に対し面談を実施する)	電子申請による提出
2026年3月27日	2026年度事業計画書等の提出	電子申請による提出

予算対比正味財産増減計算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	492,011,475	492,013,867	△ 2,392
基本財産受取利息	11,475	13,867	△ 2,392
基本財産受取配当金	492,000,000	492,000,000	0
特定資産運用益	0	1,963,900	△ 1,963,900
特定資産受取配当金	0	1,963,900	△ 1,963,900
受取利息	110,000	0	110,000
受取利息	110,000	0	110,000
雑収益	0	2,985,758	△ 2,985,758
受取利息	0	1,310,329	△ 1,310,329
雑収益	0	1,675,429	△ 1,675,429
経常収益計	492,121,475	496,963,525	△ 4,842,050
(2) 経常費用			
事業費			
助成費	184,200,000	180,352,000	3,848,000
顕彰事業関係費	2,000,000	267,262	1,732,738
助成事業関係費	7,000,000	18,212,960	△ 11,212,960
制作助成関係費	17,000,000	17,993,796	△ 993,796
制作助成推進費	13,000,000	13,193,685	△ 193,685
奨学給付金	64,600,000	63,341,505	1,258,495
奨学事業推進費	8,000,000	8,528,802	△ 528,802
直接事業費 小計	295,800,000	301,890,010	△ 6,090,010
管理費			
役員報酬	0	7,945,600	△ 7,945,600
給料手当	8,932,000	9,478,122	△ 546,122
役員退職慰労費用	0	496,600	△ 496,600
退職給付費用	415,800	483,994	△ 68,194
福利厚生費	1,199,914	2,410,214	△ 1,210,300
旅費交通費	135,000	169,290	△ 34,290
通信運搬費	487,500	247,630	239,870
消耗品費	675,000	512,868	162,132
修繕費	68,250	67,650	600
賃借料	4,635,000	4,749,273	△ 114,273
管理諸費	66,600	67,155	△ 555

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
リース料	165,000	164,340	660
手数料	112,500	51,794	60,706
委託費	2,700,000	3,104,436	△ 404,436
会費		0	0
情報公開データ整備費	2,812,500	1,153,813	1,658,687
水道光熱費	36,000	42,987	△ 6,987
雑費	0	91,227	△ 91,227
間接事業費 小計	22,441,064	31,236,993	△ 8,795,929
事業費 合計	318,241,064	333,127,003	△ 14,885,939
管理費			
役員報酬	11,240,000	3,314,400	7,925,600
給料手当	2,668,000	2,929,373	△ 261,373
役員退職慰労費用	650,000	153,400	496,600
退職給付費用	124,200	149,506	△ 25,306
福利厚生費	1,899,216	744,515	1,154,701
会議費	1,500,000	1,243,915	256,085
旅費交通費	2,205,000	2,555,223	△ 350,223
通信運搬費	162,500	272,159	△ 109,659
消耗品費	225,000	288,381	△ 63,381
修繕費	22,750	22,550	200
印刷製本費	100,000	123,200	△ 23,200
図書費	76,000	76,864	△ 864
賃借料	1,545,000	1,681,090	△ 136,090
管理諸費	22,200	22,385	△ 185
リース料	55,000	54,780	220
手数料	37,500	70,922	△ 33,422
謝金	662,000	550,000	112,000
租税公課	10,000	1,900	8,100
委託費	2,100,000	2,585,152	△ 485,152
会費	800,000	699,788	100,212
情報公開データ整備費	937,500	531,784	405,716
水道光熱費	12,000	14,328	△ 2,328
保険料	24,000	25,730	△ 1,730
雑費	1,516,000	488,577	1,027,423
管理費 合計	28,593,866	18,599,922	9,993,944
経常費用計	346,834,930	351,726,925	△ 4,891,995
評価損益等調整前当期経常増減額	145,286,545	145,236,600	49,945
特定資産評価損益等	0	83,107,400	△ 83,107,400
評価損益等計	0	83,107,400	△ 83,107,400
当期経常増減額	145,286,545	228,344,000	△ 83,057,455

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	145,286,545	228,344,000	△ 83,057,455
一般正味財産期首残高	457,818,756	457,818,756	0
一般正味財産期末残高	603,105,301	686,162,756	△ 83,057,455
II 指定正味財産増減の部			
基本財産評価損益等	0	10,722,308,841	△ 10,722,308,841
当期指定正味財産増減額	0	10,722,308,841	△ 10,722,308,841
指定正味財産期首残高	12,495,797,659	12,495,797,659	0
指定正味財産期末残高	12,495,797,659	23,218,106,500	△ 10,722,308,841
III 正味財産期末残高	13,098,902,960	23,904,269,256	△ 10,805,366,296